

## 第4節 理 科

### 第1 本資料の活用について

#### 1 作成の基本的な考え方

- (1) 小学校学習指導要領、埼玉県小学校教育課程編成要領、同指導・評価資料の趣旨を踏まえる。
- (2) 小学校学習指導要領における理科の目標は、

自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。
- (3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

である。この達成に向け、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を図り、学校教育における質の高い学びを実現し、資質・能力を身に付け生涯にわたって能動的に学び続けるようにすることが大切である。本資料ではこれらについての実践事例について指導案に則った形式で示すこととした。

#### 2 指導計画作成の留意事項

[編成要領](#)（編P75）で示された「指導計画作成に当たっての留意すべき事項」との関連についても本資料で示していく。

- (1) 「特別な支援を必要とするなど課題のある児童への指導」の視点
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点
- (3) 「教科等横断的」な視点
- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点
- (5) 「道徳教育の充実」の視点
- (6) 「問題解決の力の育成」の視点
- (7) 「体験的な学習活動の充実」の視点
- (8) 「コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用」の視点

#### 3 活用に当たっての配慮事項

- 本資料で取り上げた実践事例は、指導及び評価の一例である。本資料を参考にし、各学校の実態に応じて、指導計画を工夫し、その特性を生かした指導を行っていただきたい。
- 評価等については、本資料のほか、『小学校教育課程指導・評価資料（埼玉県）』、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）』を参照のこと。
- 取り上げた事例には、ICTの活用例も記載している。ICTの活用に当たっては、「観察、実験の代替」としてではなく、理科の学習の一層の充実を図るための有用な道具としてICTを位置付け、活用する場面を適切に選択し、教師の丁寧な指導の下で効果的に活用することが重要である。
- 実践事例を見る際には、各事例のテーマとしている点について「どのような工夫をしているか」にまず注目して見ていただきたい。そうすることで、その工夫が「なぜ必要なのか」を子供の思考を想像しながら考えることができ、自身の実践に活かす視点が見えてくると考えられる。
- 試行錯誤の中で授業は磨かれるため、まずは自分なりに授業改善のPDCAサイクルの第一歩を踏み出すことが大切である。